

本校は駿東地区の南部に位置する長泉町の中で最も古く、創立145年を迎える伝統ある小学校です。本町が子育てや教育に力を入れていくこともあり、少子化の現在では珍しく、年々児童数が増え、全校児童数1071名の大規模校です。養護教諭も複数配置されていますが、多くの子供たちが保健室を訪れ、日々慌ただしく保健室経営を行っています。



組んでいます。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、約2か月間の休校から始まり、再開後も、座席や会話、全ての活動が制限されています。その中でいかにかわり合うか、各指導部で検討を重ねました。

一言メッセージを載せたところ、大変好評でした。ある保護者から、「病気の不安や、先の見えない生活への恐怖でいっぱいでしたが、先生方が温かく見守ってくださっていることが伝わり、嬉しかったです。」というお言葉もいただきました。

豊かに手を洗っている写真を見ながら、真似をして丁寧に手を洗います。これらは新しい取組ではありません。しかし、コロナ禍において、新しい視点で取組んだことによる成果と捉えています。どちらにも

### 長泉町立長泉小学校

養護教諭 福田 敬子

今年度の本校のキーワードは「強い思いをもち、かわり合う」です。授業の中はもちろんです。学校教育活動全般で、かわり合いを意識し、全校で取り

保健室としてまず取り組んだことは、「コロナ保健だより」です。体育主任、栄養教諭、養護教諭のコーナーを作り、運動と栄養、病気の予防について記載し、全てを関連付けた内容でまとめました。また、裏面には職員から子供たちへの

感染予防に最も効果のある手洗いを、子供たちが楽しみながら習慣づけられる方法はないか模索しました。そこで、「手洗いの掲示物」をそのフロアの教員をモデルに作り直し、各水道に掲示しました。子供たちは、自分の学年の先生が表情

共通していることは、教職員と繋がりが、かわり合い、連携した活動です。保健指導、保健管理において、この新しい視点で活動を見直し、幅広い取組を行っていきたくです。コロナ禍における生活が今後どのような生活なのか、誰にも分かり

ません。今、経験している生活による心身への影響も計り知れませんが、その中において、保健室が担う役割は大きいと捉えています。マスクで覆われた子供たちの表情を今まで以上に見つめ、つぶやきに耳を傾け、教職員と繋がりがながら、子供たちを支えていきたいと考えています。



本校は、浜松市の北部に位置する全校生徒28名の小規模校です。自然豊かで、周りを山と川に囲まれており、鹿や猿、ハクビシンなどの野生動物が敷地内で目撃されることもあります。半世紀の間に

生徒は素直で優しく、学校行事や部活動、ボランティア活動に一生懸命取り組むとともに、地域の行事にも積極的に参加し、地域を盛り上げる一員として、大きな役割を担っています。しかし、その一方で、メディア機器の長時間利用により、生活習慣が乱れている生徒

したりして、小規模校の養護教諭として、できる限り毎日全校生徒と触れ合いながら、このところからの健康状態をチェックするよう心がけています。一緒に活動していく中で、生徒は心を開いてくれるようになり、悩み相談を受けたり、健康について質問されたりす

シャルティストランスを保つことができると前年度までとは異なる形で行うことになりました。集会の実施後は生徒の表情が明るくなり、笑顔が多くなりました。友だちとの関わりで悩みを抱えている生徒も、集会がきっかけ

中、マスクの着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスなど、「いつもと違う生活」で学校生活がスタートしました。養護教諭として何をすべきか戸惑うこともありますが、皆が感染症予防を意識できるよう、環境整備や情報の収集・発信に心がけています。また、忙しい中でも、アンテナを高くし、些細な変化に気づき、生徒の心に寄り添うことができる養護教諭でありたいと思っています。



### 浜松市立佐久間中学校

養護教諭 松本 祐輝

徒や幼少期から固定化された人間関係の中で悩んでいる生徒もいるのが現状です。私は、平成30年度に新規採用教員として本校に赴任して以来、毎朝昇降口であいさつを交わしたり、授業に参加して生徒と一緒に小テストに挑戦したり、校歌を歌ったり、運動

る機会が増えました。本校では、生徒の自己肯定感、人間関係調整能力の向上を目的に、養護教諭と生徒指導が中心となり、グループエンカウンターを利用した全校集会を行っています。令和2年度はコロナウイルス感染症対策のため、回数を減らしたり、ソ

となり、仲間の輪に入れるようになることが多くありました。職員も大変協力的で、活動の趣旨を共通理解し、目標達成に向けて全校体制で取り組んでくれます。小規模校ならではの一人一人を大切にしたい指導がなされていると実感しています。本年度、コロナ禍の

御殿場市は霊峰富士の東麓に位置する緑豊かな高原都市です。人口は約9万人で、静岡県では中規模な都市として発展を続けています。東京から約100kmの距離にあり、東京・横浜などの経済圏・通勤圏内にもなっています。

## げんきな事業所

### 御殿場市役所

(御殿場市萩原4833番地)

を占めており、「自衛隊のまち」とも称されています。

御殿場市の名物といえば、「みくりやそば」です。麺は山芋や自然薯をつなぎに使い、つゆには、富士山の伏流水、食材は鶏肉・人参・しいたけなどを使用しています。年越しやお祝い事で振舞われ、市民に親しまれる郷土料理です。ご当地グルメとして市内の多くの飲食店でも味わうことができます。

御殿場市役所には、市庁舎をはじめ、支所、保育園、幼稚園、小・中学校及び図書館、公共施設等に約1,200人の職員が勤務しています。

別の休暇の取得状況や時間外勤務実施状況について集計・分析し、時間外勤務の実施が多い所属や個々の就業状況に大きく偏りがある所属については、分析結果を伝達し、所属の業務効率化への意識向上に取り組んでいます。

「御殿場」という地名は、江戸時代に徳川家康公が江戸と駿府を往来する際の休憩所としてこの地に御殿造営を命じたことに由来しています。

市内には、東富士演習場をはじめとする自衛隊関連施設が多く存在し、地域の約1/3

【職場の安全と健康管理】御殿場市役所では、快適な職場環境の形成を促進し、職員の健康保持等を図るため各種の取り組みを行っています。

（メンタルヘルスの取り組み）御殿場市職員として臨床心理士を採用し、職員が安心して働ける環境づくりのため、「心の健康相談」を実施し、様々な相談に応じています。



御殿場市全域



御殿場市役所外観

今後も、職員の心と体の健康維持に努めていきます。そして、本市の将来都市像である「緑きらさら いいきいき 交流都市 御殿場」を目指します。また、SDGsの推進により、誰一人取り残すことなく、すべての市民の皆さまが輝けるまちづくりのため、全力で取り組んでいきます。